

2020年7月9日
川崎汽船株式会社**ブラジル沖 Marlim 鉦区向け FPSO 保有・備船事業への参画について**

川崎汽船株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：明珍幸一、以下「当社」）は、マレーシアのエネルギー・サービス事業者である Yinson Holdings Berhad（インソン・ホールディングス、以下「インソン社」）の 100%出資子会社、及び住友商事株式会社（以下「住友商事」）と、ブラジル国営石油会社のペトロブラス社が開発するブラジル・リオデジャネイロ沖 Marlim（マーリム）鉦区向け浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備（以下「本 FPSO」（注1））の保有・備船事業への出資参画に関する契約（以下「本契約」）を締結しました。当社は、本 FPSO の安定操業後（2023 年予定）に事業会社の株式約 10%を取得し、本事業に参画の予定です。

本 FPSO は、ブラジル沖約 150 キロメートルのカンボス盆地に位置する Marlim 鉦区において、ペトロブラス社が行う油ガス田の再開発事業に利用される予定で、現在、インソン社と住友商事は、ペトロブラス社との間で定期備船契約および操業・保守契約を締結している FPSO 保有・備船会社および操業保守会社へ共同出資をしております。本事業ではインソン社を始めとして、住友商事、当社は 2023 年第 1 四半期の石油・ガス生産開始を目指すとともに、設備完工から 25 年の契約期間（延長オプション無し）にわたり運営に携わります。

当社にとって、本事業は 2018 年に参画したガーナ沖での FPSO 事業に続く、インソン社及び住友商事との 2 件目の FPSO 協業事業であり、本年度より当社技術者をインソン社が主導するプロジェクトチーム（シンガポール）に派遣の上、効率的に操業・管理に関する知見を獲得するための準備を進める予定であります。

当社は、FPSO 事業を長期安定収益事業分野として、インソン社及び住友商事との協業を軸に拡大を目指すと同時に、蓄積した知見を後続 FPSO 事業及び新規エネルギー関連事業へ活かして参ります。

注1）FPSO（Floating Production, Storage and Offloading）は、洋上で石油やガスを生産し、タンクに貯蔵した上で、直接タンカーへの積み出しを行う設備です。COVID-19 での一時的な石油やガスの需要減少はあるものの、引続き大水深での石油・ガス生産設備として FPSO は需要拡大が見込まれており、特にブラジルでは堅調な需要が見込まれています。

<参考資料>

■Yinson Holdings Berhad 概要

1983 年設立、マレーシア証券取引市場上場の大手 FPSO コントラクター

本社所在地 : KL Eco City, 59200 Kuala Lumpur, Malaysia

事業内容 : FPSO 含むエネルギー関連アセットを通じたサービス提供

保有 FPSO 数 : 6 隻（2020 年 4 月現在。建造中を含む）

■本事業の概要

原油処理能力 : 70,000 バレル／日

ガス処理能力 : 4 百万立方メートル／日

備船期間 : 2023 年～2048 年（25 年間）

■ ガーナ沖で操業中の FPSO (FPSO John Agyekum Kufuor(インソン社提供))

